

第2期芦屋市教育振興基本計画（平成28～32年度）の体系・骨子（案）

現計画の体系・骨子	現計画の振返りからの主な現状と課題	アンケート調査からの主な現状と課題	新たな国の方向性	新たな県の方向性	視点（重点課題）	第2期芦屋市教育振興基本計画の体系・骨子（案）			
						基本目標	施策の方向性		
重点目標1 「豊かな人間力」をはぐくむために、考える力や創造性を伸ばす教育を進めます (1) 基礎的・基本的な知識・技能を活用する学力向上方策の充実を図り、「確かな学力」を確立します。 (2) 人間形成の基礎となる道徳性など「豊かな心」の育成に取り組みます。 (3) 体育・スポーツ活動や健康教育・食育を推進し、「健やかな体」の育成に取り組みます。 (4) 情報教育や国際化に対応した教育など、今日的な課題に対応した教育を推進します。 (5) 子ども一人一人の障がいの状態や発達段階・特性等にに応じた指導の充実に取り組みます。	①全国学力・学習状況調査の結果から、小中学生は国語、算数・数学ともに基礎的・基本的な知識・技能は概ね身に付いており、評価できる結果。 ②児童生徒に思いやりの心や善悪の判断等の道徳心を育み、社会生活に必要な常識やマナーを身に付けられるよう、道徳の指導を一層充実することが必要。 ③文科省の新体力テストでは、小中学生・男女とも、全国及び県平均を下回っている。 ④情報教育として、情報モラルを含めた授業内容、指導方法を検討していくことが必要。 ⑤グローバル化を見据えた語学力やコミュニケーション能力、あるいはチャレンジ精神や創造性、リーダーシップなどを培うことが必要。 ⑥障がいのある子どもが就学前から就学スムーズに移行できる仕組みを検討することが必要。	①子どもたちの「自ら学び、考え、主体的に行動する」「表現力やコミュニケーション」「生き方や進路について考える力」に課題がある。 ②芦屋の子どもたちが、思いやりがある子どもになってほしいと、すべての年代の市民が願う。 ③現在、子どもの教育について感じることで、子どもの道徳心や規範意識などの低下」が最も高い。 ④現在の教育の取組の中でも、「いじめ」「暴力行為」に対する指導」については重要度が高い。 ⑤朝食を欠食している子どもが1割程度いる。 ⑥芦屋市で力をいれていくべき教育施策として、「外国語教育の充実」がすべての項目の中で最も高い。 ⑦特別支援教育の充実のために必要な取組として、「子どもの実態に応じた相談体制の強化」が最も高い。	1 社会を生き抜く力の養成 ○生きる力の確実な育成（幼稚園～高校）（視点①、②、③、⑨） →生涯にわたる学習の基礎となる「自ら学び、考え、行動する力」などを確実に育てる ・新学習指導要領を踏まえた言語活動等の充実 ・ICT活用などによる学びのイノベーション ・特別なニーズに対応した教育の推進 など ○課題探求能力の習得（視点①） →どんな環境でも「答えのない問題」に最善解を導くことができる力を養う ・アクティブラーニング ・教員サポート など ○自立・協働・創造に向けた力の習得（生涯全体）（視点①） →社会を生き抜くための力を生涯を通じて身につけられるようにする ○社会的・職業的自立に向けた力の育成（視点①） →進路への意識向上や雇用状況の改善に向けた取組の増加 2 未来への飛躍を実現する人材の養成 ○新たな価値を創造する人材、グローバル人材等の育成（視点④） 3 学びのセーフティネットの構築 ○意欲ある全てのものへの学習機会の確保 ○安全・安心な教育研究環境の確保（視点⑦） →学校の耐震化、防災教育等の学校安全に関する教育、地域社会・家庭と連携した学校安全の推進 4 絆づくりと活力あるコミュニティの形成 ○互助・共助の活力あるコミュニティの形成（視点⑧） →コミュニティ・スクール、学校支援地域本部等の普及、コミュニティの協働による家庭教育支援 など	基本方針1 自立して未来に挑戦する態度の育成 1 社会的自立に向けたキャリア形成の支援（視点①） →自己理解・自己管理能力、コミュニケーション能力や課題対応能力等の育成 2 兵庫型「体験教育」の推進 3 グローバル化に対応した教育の推進（視点④） 基本方針2 「生きる力」を育む教育の推進 1 「確かな学力」の育成 2 「豊かな心」の育成 3 「健やかな体」の育成 4 幼児期の教育の充実（視点②） →子どもの生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期 5 特別支援教育の充実 6 私学教育の振興 7 高等教育の推進 基本方針3 子どもたちの学びを支える仕組みの確立（視点⑦、⑧） 1 学校の組織力及び教職員の資質能力の向上 2 安全・安心な学習環境の整備 3 家庭の教育力の向上 4 地域全体で子どもを育てる環境づくりの推進 基本方針4 すべての県民が学ぶ生涯学習社会の形成（視点⑨） 1 生涯を通じた学びの機会・場の充実 2 文化財の保存・活用 3 「スポーツ立県ひょうご」の実現	①自ら学び、考え、主体的に行動する力、表現力やコミュニケーション力、生き方や進路について考える力の育成 ②就学前からの一貫した教育の体制整備 ③情報社会を主体的に生きるための情報教育への対応 ④外国語教育の充実などグローバル化への対応 ⑤心身の成長や健康の保持増進と体力向上への対応 ⑥「いじめ」「暴力行為」など、他者への思いやりと集団における規範意識の向上への対応	1 自らの未来を切り拓く「生きる力」の育成 (1) 就学前教育の推進 (2) 「確かな学力」の育成 (3) 「健やかな体」の育成 (4) 「豊かな心」の育成 (5) 特別支援教育の推進 (6) 読書活動の推進	2 命と人権を大切にす教育の充実 (1) 人権尊重の理念に基づく「共生」の心の育成 (2) 防災教育の推進 (3) 子どもの内面理解に基づく生徒指導の充実	3 子どもたちの学びを支える環境の整備 (1) 教職員の資質向上の推進 (2) よりよい教育環境の推進 (3) 学校・家庭・地域の連携による支援	4 多様な学びのできる生涯学習社会の構築 (1) 生涯学習の推進 (2) 読書のまちづくりの推進 (3) 生涯スポーツの推進
重点目標2 命と人権を大切にす教育の充実に取り組みます (1) 自らの命を守る安全教育に加え、震災の教訓を生かし、語り継ぐ芦屋の防災教育を推進します。 (2) 人権尊重の理念に基づく「共生」の心をはぐくむ教育に取り組みます。 (3) いじめ、不登校等の課題に適切に対応するため、子どもたちの「心」を支えるシステムやネットワークの充実に取り組みます。	⑦震災の体験を語り継ぐとともに、子どもが自ら身を守り安全を確保することができる能力を培う取組を継続・充実することが必要。 ⑧スマートフォンやSNSなどが、人権侵害へと繋がる危険性があることから、子どもの人権を守るため、外部専門家の意見を聞きながら、教育・研修をさらに充実すること重要。 ⑨日本語理解が不十分な子どもを支えるために、日本語指導や、支援の方法を市全体で考えていくことが必要。 ⑩いじめ、不登校対策として、学校・家庭・関係機関が連携した取組を一層推進することが必要。 ⑪子どもたちが異なる文化的背景を持つ人たちと、互いに理解しあい、共生できるよう、学校や関係機関が連携して、取り組むことが必要。	⑧現在の教育の取組の中でも、「いじめ」「暴力行為」に対する指導」の重要度が高い。 ⑨「自らの命を守る安全教育」の重要度が高い。 ⑩いじめや不登校などの問題を防止するために必要なこととして、「教職員が子どもを注意深く観察し、状況を把握すること」が最も高くなっている。 ⑪「不登校児童生徒に対するケアや支援」の重要度が高い。	○自立・協働・創造に向けた力の習得（生涯全体）（視点①） →社会を生き抜くための力を生涯を通じて身につけられるようにする	○自立・協働・創造に向けた力の習得（生涯全体）（視点①） →子どもたちの生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期 5 特別支援教育の充実 6 私学教育の振興 7 高等教育の推進	⑦「いじめ」「暴力行為」など、他者への思いやりと集団における規範意識の向上への対応	(1) 人権尊重の理念に基づく「共生」の心の育成 (2) 防災教育の推進	(1) 教職員の資質向上の推進 (2) よりよい教育環境の推進 (3) 学校・家庭・地域の連携による支援	(1) 生涯学習の推進 (2) 読書のまちづくりの推進 (3) 生涯スポーツの推進	
重点目標3 信頼され魅力ある学校園づくりに取り組みます (1) 教職員の資質・実践的指導力の向上をめざし、教職員研修の充実を図ります。 (2) 教員が子どもと向き合う時間を確保します。 (3) 快適で魅力ある学習環境を整えます。 (4) 小中間の連携を強化する取組を推進します。 (5) 幼稚園における子育て支援を進めます。 (6) 「開かれた学校園づくり」を進めます。	⑫教員が実践的指導力を向上させるため、「学び続ける教員」を育成することが必要。 ⑬教職員の配置の適正化や外部人材の活用、教育現場のICT化等に総合的に取り組むことが必要。 ⑭児童生徒が良好な環境で学習活動を継続できるよう、今後も計画的に学校施設設備の整備・改修を行うことが必要。 ⑮義務教育を通じた支援体制づくりのため、小中学校の教員が連携し、効果的な学力向上の方策についての共通認識を持つことが必要。 ⑯保護者の多様なニーズに対応した子育て支援のほか、就学前に応じた子どもたちの能力を育成するため、幼・保が「芦屋市就学前カリキュラム」に基づいた教育・保育を実践することが重要。	⑫「教職員が教員の専門家として専門性を身につける取組」の重要度が高い。 ⑬現在の教育の取組の中で、「教員が子どもと向き合う時間の確保の取組」の重要度が高い。 ⑭教職員の職務の多忙さの「一人一人応じた学習指導が以前よりも求められるようになった」「生活指導が必要な児童・生徒が増えた」の理由が多い。 ⑮市民、教職員とも、半数以上が、学校校舎・施設の老朽化対策を充実してほしいと望んでいる。 ⑯就学前教育の充実のために必要なこととして、「あいさつやルールを守る規範意識の育成」が最も高い。	○新たな価値を創造する人材、グローバル人材等の育成（視点④）	○安全・安心な教育研究環境の確保（視点⑦） →学校の耐震化、防災教育等の学校安全に関する教育、地域社会・家庭と連携した学校安全の推進	⑦学校園・家庭・地域との連携による子どもの学びを支える環境づくり ⑧家庭・地域の教育力の向上への対応	(1) 教職員の資質向上の推進 (2) よりよい教育環境の推進 (3) 学校・家庭・地域の連携による支援	(1) 生涯学習の推進 (2) 読書のまちづくりの推進 (3) 生涯スポーツの推進		
重点目標4 自ら本を手に取り、本が好き子どもを育てます (1) 読書活動の充実継続的に取り組み、自ら本を手に取り、楽しんだり、活用したりする本が好き子どもを育てます。 (2) 学校図書館の環境整備を進め、学校図書館の活性化を図ります。 (3) 公立図書館と連携した教育活動を推進します。	⑰「家読運動」をさらに推進するために、家庭との連携のほか、公立図書館の活用を推進することが必要。 ⑱学校図書館を活用した授業の研究を一層推進することが必要。 ⑲児童生徒の読書活動の幅を広げるよう、学校図書館担当者と公立図書館の交流・連携を一層推進することが必要。	⑰小学生に比べ、中学生の方が学校以外で本を読まない割合が多い結果となっている。	○安全・安心な教育研究環境の確保（視点⑦） →学校の耐震化、防災教育等の学校安全に関する教育、地域社会・家庭と連携した学校安全の推進	○安全・安心な教育研究環境の確保（視点⑦） →学校の耐震化、防災教育等の学校安全に関する教育、地域社会・家庭と連携した学校安全の推進	⑧家庭・地域の教育力の向上への対応	(1) 教職員の資質向上の推進 (2) よりよい教育環境の推進 (3) 学校・家庭・地域の連携による支援	(1) 生涯学習の推進 (2) 読書のまちづくりの推進 (3) 生涯スポーツの推進		
重点目標5 学校園・家庭・地域が連携して、子どもたちの育成を支えます (1) 学校園と地域の諸団体や企業等とをネットワークで結び仕組みづくりを拡充します。 (2) 子どもたちが安全で安心できる活動拠点を提供します。 (3) 親学など家庭に関わる教育の重要性の浸透を図ります。	⑳子どもたちの社会性を育むために、子どもたちが地域の人とふれあう場や事業の充実に取り組むことが必要。 ㉑家庭教育に関する情報や学習機会の提供等を通して家庭教育力を高めるとともに、家庭・地域での子育てを支援し、社会全体で子どもを育てる活動を積極的に進めることが必要。	⑱地域の大人に望むこととして、小学生・中学生ともに「自分たちの安全を見守ってほしい」が最も高い。 ⑲自分の家族に求めることとして、中学生で、「おこったり、ロウさく言ったりしないでほしい」「他人や兄弟などと比べないでほしい」「がんばっていることをもっと認めてほしい」が多い。 ㉑地域の子どものとの関わりでは出会ったときに声をかけたり、ほめたり、注意したりするなど積極的にかかわる意識が若年ほど低い傾向がある。	○安全・安心な教育研究環境の確保（視点⑦） →学校の耐震化、防災教育等の学校安全に関する教育、地域社会・家庭と連携した学校安全の推進	○安全・安心な教育研究環境の確保（視点⑦） →学校の耐震化、防災教育等の学校安全に関する教育、地域社会・家庭と連携した学校安全の推進	⑨生涯学習に関する潜在的なニーズに対する芦屋市内における学習資源の活用と対応	(1) 生涯学習の推進 (2) 読書のまちづくりの推進 (3) 生涯スポーツの推進	(1) 生涯学習の推進 (2) 読書のまちづくりの推進 (3) 生涯スポーツの推進		
重点目標6 「いつでも、どこでも、だれでも」参画できる生涯学習社会づくりを推進します (1) 生涯学習基盤の整備・拡充を図ります。 (2) 社会教育と学校園との連携を拡充します。 (3) 様々な機会を生かした、学習成果発表の場を構築します。 (4) 「芦屋市スポーツ振興基本計画（後期5か年計画）」による施策を展開します。	㉒芦屋市内にある学習資源を活かしながら、学習しやすい日程、内容等を工夫していくことが重要。 ㉓市民の様々な生涯学習活動の成果を学校や地域に還元し、地域での課題解決に活かしていくことが重要。 ㉔公立図書館などの機能強化を図り、またそれを活用することで、市民一人一人の学習内容を深めていくことが必要。 ㉕スポーツ施設の利用促進を図り、市民一人一人がスポーツ行事等を通じて運動習慣を身につけることが必要。	㉒仕事や家事、学業のほかに、学んだり活動したいこととして、「文化・芸術活動」「教養を高めること」「日常生活・家庭生活に役立つもの」についてニーズが高い。 ㉓現在、仕事や家事、学業のほかに、学んだり活動している場所として、「市外」「自宅」が最も高い。 ㉔図書館の利用頻度は、「ほとんど利用しない」が最も高い。 ㉕利用しやすくすることとして、「新しい資料（新刊図書や雑誌）を充実させる」「読書や調べものをできるスペースを広く確保する」が最も高い。 ㉖現在活動している方の中では、スポーツに関するものが最も多く、特に50歳代、60歳代が多い。	○安全・安心な教育研究環境の確保（視点⑦） →学校の耐震化、防災教育等の学校安全に関する教育、地域社会・家庭と連携した学校安全の推進	○安全・安心な教育研究環境の確保（視点⑦） →学校の耐震化、防災教育等の学校安全に関する教育、地域社会・家庭と連携した学校安全の推進	⑨生涯学習に関する潜在的なニーズに対する芦屋市内における学習資源の活用と対応	(1) 生涯学習の推進 (2) 読書のまちづくりの推進 (3) 生涯スポーツの推進	(1) 生涯学習の推進 (2) 読書のまちづくりの推進 (3) 生涯スポーツの推進		